

試 験 地	受 検 種 別	受 験 番 号						氏 名

（ 受験地変更者は上欄のほか、本日の受験地と仮受験番号を記入してください。）  
 本日の受験地 ..... 仮受験番号 仮一 .....

平成 21 年度  
**2 級建築施工管理技術検定試験**  
 実地試験問題

次の注意事項をよく読んでから始めてください。

〔注 意 事 項〕

1. ページ数は、表紙を入れて 6 ページです。
2. 試験時間は、14 時 15 分から 16 時 15 分です。
3. 試験問題は、5 問題です。全問題解答してください。
4. 解答は、別の解答用紙の定められた範囲内に、黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
5. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
6. この問題用紙は、実地試験の試験終了時刻まで在席した方のうち、希望者は持ち帰ることができます。  
 途中退席者や希望しない方の問題用紙は、回収します。

**問題 1**

あなたが経験した**建築工事**のうち、あなたの受検種別に係る工事の中から、品質管理を行った工事を1つ選び、工事概要を記入した上で、次の問いに答えなさい。

なお、**建築工事**とは、建築基準法に定める建築物に係る工事とする。ただし、建築設備工事を除く。

〔工事概要〕

イ. 工 事 名

ロ. 工 事 場 所

ハ. 工事の内容  $\left( \begin{array}{l} \text{新築等の場合：建物用途，構造，階数，延べ面積又は施工数量，} \\ \text{　　　　　　　　　　主な外部仕上げ，主要室の内部仕上げ} \\ \text{改修等の場合：建物用途，主な改修内容，施工数量又は建物規模} \end{array} \right)$

ニ. 工 期 (年号又は西暦で年月まで記入)

ホ. あなたの立場

ヘ. 業 務 内 容

1. 上記の工事概要であげた工事で、あなたが実際にかかわった工種において、その工事を施工するに当たり、品質を確保するため特に**留意した点**とその**理由**及びそのためにあなたが**実際に行ったこと**を、**3つ**具体的に、**工種名**（鉄骨工事、防水工事など）をあげて記述しなさい。

ただし、「設計図どおり施工した。」など施工上行ったことを具体的に記述していないものや、品質以外の工程管理、安全管理についての記述は不可とする。

なお、工種名については、同一の工種名でなくてもよい。

2. 上記の工事概要であげた工事及び受検種別にかかわらず、あなたの今日までの工事経験に照らして、品質の良い建物を造るための**品質管理の方法**とそれが良い方法だと考える**理由**を、**2つ**具体的に記述しなさい。

ただし、2つの解答はそれぞれ異なる内容の記述とし、また、上記1.の解答と同じ内容の記述は不可とする。

**問題 2**

次の建築工事に関する用語のうちから 5 つを選び、その用語の説明と施工上留意すべき内容を具体的に記述しなさい。

ただし、仮設以外の用語について、留意すべき内容には作業上の安全に関する記述は除くものとする。

また、材料に不良品はないものとする。

足場の手すり先行工法

帯筋

クレセント

研磨紙ずり

ジェットバーナー仕上げ

スランプ

タイルの密着張り工法

脱気装置

タンピング

鉄骨建方時の安全ブロック

ヒービング

モルタルのつけ送り

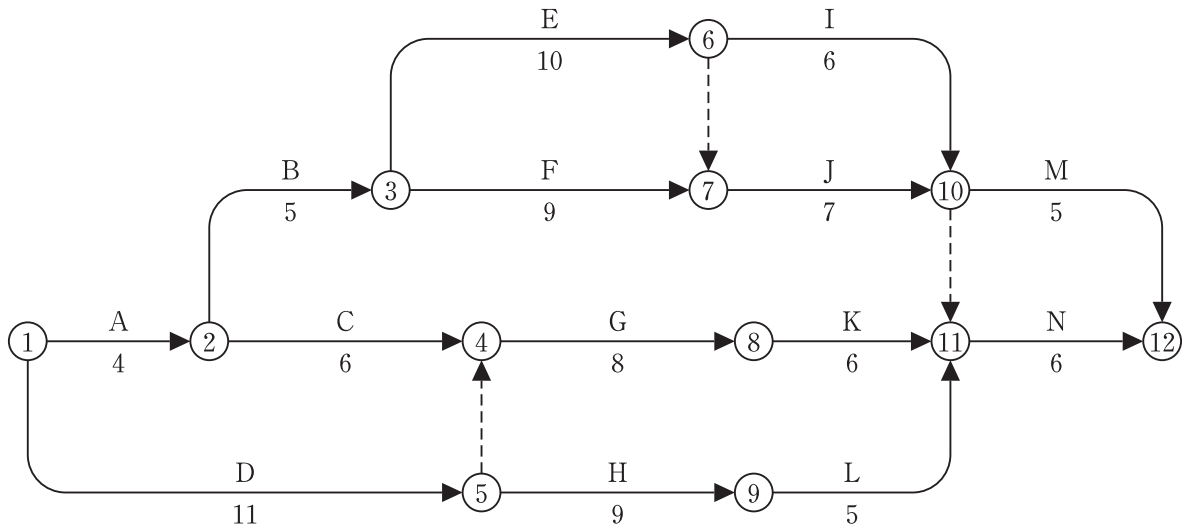
溶接のアンダーカット

リーマー掛け

**問題 3**

図に示すネットワーク工程表について、次の 1. から 3. の問いに答えなさい。

なお、矢線の上段のアルファベットは作業名、下段の数值は所要日数を示す。



1. 工程表において、①から⑫までの**総所要日数**を答えなさい。
2. 工程表において、作業Kの**フリーフロート**は何日間であるか、**日数**で答えなさい。
3. 工程表において、作業D及び作業Eをそれぞれ2日間短縮したときの**クリティカルパス**を、**作業名**で工程順に並べて答えなさい。

**問題 4**

次の文章中、下線部の語句が適当なものは○印を、不適当なものは適当な語句を記入しなさい。

1. コンクリートの工事現場内運搬において、高所から縦形フレキシブルシュートを用いてコンクリートを打設する場合、その投入口と排出口との水平距離は、垂直方向の高さの2倍以下とする。
2. 型枠工事における木製のせき板は、コンクリート内部の硬化不良などを防止するため、製材・乾燥及び集積などの際に、できるだけ直射日光にさらされないよう注意する。
3. 鉄筋の継手は、周辺コンクリートとの付着に期待して鉄筋の応力を伝達する重ね継手と、鉄筋の応力を直接伝達するガス圧接継手、機械式継手、溶接継手などに大別される。
4. 鉄骨工事の溶接において、予熱を行う主たる目的は、溶接後の冷却速度を早くさせて、冷却過程での溶解度の減少から鋼の中の水素の外部放出を容易にし、熱影響部の硬さも減少させることで、低温割れを防止することである。
5. シーリング工事において、鉄筋コンクリート外壁の打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地、建具回り目地等で動きの小さい場合の目地構造は、2面接着を標準とする。
6. 塗装のエアレススプレー方式は、塗料自体に圧力を加えて、この圧力により霧化するため、エアスプレー方式よりも高粘度の塗装材料を霧化でき、薄膜に仕上げられ、飛散ロスも少なく、効率的な施工ができる。
7. 硬質塩化ビニル樹脂製のたてどいを継ぐ場合は、専用の継手部品を用いて接着し、継いだどいの長さが10 mを超える場合は、エキスパンション継手を有効に設ける。
8. 木造住宅における防湿層付きフェルト状断熱材は、防湿層を室外側に向けて取り付け、防湿層にきずや破れなどがある場合は防湿テープで必ず補修する。

**問題 5**

「建設業法」、「建築基準法施行令」及び「労働安全衛生法」上、次の各記述において、それぞれ誤っている語句の番号を1つあげ、それに対する正しい語句を記入しなさい。

## 1. 建設業法

請負人は、請負契約の履行に関し工事現場に現場代理人を置く場合においては、当該現場代理人の権限に関する事項及び当該現場代理人の行為についての注文者の請負人に対する意見の申出の方法（第3項において「現場代理人に関する事項」という。）を、口頭により注文者に通知しなければならない。

## 2. 建築基準法施行令

建築工事等において建築物その他の工作物に近接して根切り工事その他土地の掘削を行う場合においては、当該工作物の外壁又は地盤を補強して構造耐力の低下を防止し、急激な排水を避ける等その傾斜又は倒壊による危害の発生を防止するための措置を講じなければならない。

## 3. 労働安全衛生法

事業者は、クレーンの運転その他の業務で、政令で定めるものについては、都道府県労働局長の当該業務に係る免許を受けた者又は都道府県労働局長の登録を受けた者が行う当該業務に係る安全衛生教育を修了した者その他厚生労働省令で定める資格を有する者でなければ、当該業務に就かせてはならない。

